



東日本大震災から10年
福島県伊達市より全国の青年僧侶の祈りをつなぐ

慰霊追悼
復興祈願 **オンライン法要**

令和3年3月10日午後2時30分より LIVE 配信 YouTube

全日本仏教青年会 全国曹洞宗青年会 世界仏教徒青年連盟

東日本大震災より十年

追悼慰霊・復興祈願オンライン法要

第二十三期副会長 山田 俊哉 やまだ ぶん哉

全国曹洞宗青年会（以下、全曹青）では、全日本仏教青年会と世界仏教徒青年連盟との共催にて、東日本大震災発災より十年、その連夜となる令和三年三月十日に、「追悼慰霊・復興祈願オンライン法要」を執り行いました。

全曹青では発災当初より、被災者に寄り添う行茶活動や各地での支援活動、全国から写経を募る活動を積極的に展開してきました。昨年度は、新型コロナウイルスの感染拡大への懸念が強まっていた状況下において、準備と参加者募集まで行っていた慰霊行持を直前にて中止せざるを得ませんでした。参加者の安全、そして受け入れていただくご寺院さまや、参列される檀信徒の皆さまの安全を第一に考慮した対応でしたが、長年東北に足を運び支援活動を継続している会員や関係各位の想い、なにより被災者の皆さまの想いを鑑みるに、苦渋の決断となりました。各寺での法要や、発災時刻に鐘を鳴らす企画で全国の祈りを繋ぎました。



共催各会長三師が導師を勤めました

今度こそはと準備を進めておりましたが、コロナ禍は収まらず、首都圏の緊急事態宣言も解けない状況で、誠に残念ながら被災地に集合しての法要は難しいと判断しました。そこで今年度の会議や研修会で慣れ親しんだオンラインツールを使用し、各加盟団体の映像を相互に繋いだオンライン法要を計画し、その映像を広く一般へ同時配信することにしました。

現地法要は例年の如く、福島県伊達市の成林寺さま境内の納経塔前において、各共催団体代表者と現地役員の限定人数で執り行いました。強風でしたが陽も差す中、黙禱に引き続き超宗派による法要を行いました。私は配信担当でしたが、全国各地の団体からも法要を行う映像が届けられ、まさに壮観な画面となりました。皆さまの想いと繋がる祈りに涙がこぼれました。

納経塔は、平成二十五年に全日本仏教青年会主催で、福島市音楽堂で開催された三回忌法要にて祭壇に奉納されたのち、全曹青災害復興支援現地本部があったこの地に建立されました。発災当時に支援活動の拠点となった宮城県角田市・自照院さま、また岩手県山田町・龍泉寺さまの境内に建立された記念碑「活動の灯」とともに、追悼慰霊・復興祈願の想いを込めて、またあの日のことを決して忘れない誓いの場としての役割を担っています。

東日本大震災から一〇年
慰霊追悼・復興祈願
オンライン法要

全日本仏教青年会 全国曹洞宗青年会 世界仏教徒青年連盟



全国各地の僧侶の想いと繋がる祈り

被災地に暮らす青年僧は、被災者との会話で「節目、区切り」という言葉はとても使えないと言っていました。辛い記憶を心に留めながらも、懸命に前を向く方がたにとつて、震災は現在も続いています。納経塔協の碑には、我々青年僧侶の誓いが刻まれています。

東日本大震災『鎮魂の誓い』

共に悼みます 失われた命を
 共に祈ります 別れた命の安らぎを
 共に忘れません その輝いていた命を
 共に縁より添います 同じ命を生きる証に

合掌



YouTube 全曹青チャンネル
 「オンライン法要」QRコード



● 執筆者プロフィール
 第二十三期副会長
 山田俊哉

秋田県曹洞宗青年会所属
 全曹青第二十二期事務局長。第二十三期副会長・災害復興支援部コーディネーター。第二十四期会長（令和三年度より）。

東日本大震災から一〇年
 慰霊追悼・復興祈願
 オンライン法要

全日本仏教青年会 全国曹洞宗青年会

世界仏教徒青年連盟